

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●皐月賞はミュージアムマイルが優勝

4月20日(日)に行われた皐月賞(G I)ではミュージアムマイル(牡3歳/栗東・高柳大輔厩舎)が優勝、重賞初制覇をG Iの大舞台で果たしました。勝ちタイム1分57秒0は昨年ジャスティンミラノが記録した1分57秒1を0秒1更新するレースレコード。鞍上のJ.モレイラ騎手(ブラジル)は先週の桜花賞も制しており、騎手の桜花賞・皐月賞連勝は史上6人目のこととなります。

●中山グランドジャンプはエコロデュエルが優勝

4月19日(土)に行われた中山グランドジャンプ(J・G I)ではエコロデュエル(牡6歳/美浦・岩戸孝樹厩舎)が優勝、J・G I初制覇を果たしました。

●松岡正海騎手がJRA通算900勝を達成

4月19日(土)の3回中山7日・第8レースではマンダリンボレロが1着となり、同馬に騎乗した松岡正海騎手(美浦・フリー)は、史上53人目・現役23人目となるJRA通算900勝(1万2953戦目)を達成しました。

●遠藤汰月騎手がJRA初勝利をあげる

4月20日(日)の1回福島4日・第8レースではパープルナイトが1着となり、同馬に騎乗した遠藤汰月騎手(美浦・伊藤伸一厩舎)は、JRA初勝利(53戦目)をあげました。

●重賞ウィナー2頭の競走馬登録抹消

2023年スポーツニッポン賞ステイヤーズS(G II)の勝ち馬アイアンバローズ(牡8歳/栗東・上村洋行厩舎/JRA通算29戦5勝・海外2戦0勝)は1月16日(木)付、2023年名古屋グランプリ(名古屋・Jpn II)などの勝ち馬ディクテオン(騊7歳/栗東・吉岡辰弥厩舎/JRA通算16戦4勝・地方8戦3勝)は1月17日(金)付で競走馬登録を抹消されました。アイアンバローズは病気のため死亡し、ディクテオンは地方・大井競馬へ移籍しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ネクストスター東日本はガバナビリティー【各地の主要3歳重賞】

当初3月19日に浦和で実施予定で、開催中止のため順延となったネクストスター東日本(4月10日、川崎、1400^米)は、2番手から3コーナー手前で先頭に立った船橋所属馬ガバナビリティー(牡、父シニスターミニスター)が1番人気に応えました。クラウンC(4月8日、川崎、1600^米)は、一時は最後方まで位置取りを下げた7番人気のミーヴァトン(牡、父スマートファルコン)がゴール寸前で差し切り、重賞初挑戦で初制覇。東海クイーンC(4月10日、名古屋、1700^米、牝馬)は、北海道デビューから笠松、JRAを経てこれが愛知移籍緒戦だった5番人気のコパノエミリア(父コパノリッキー)が、中団から差を詰めてゴール前で1番人気のエレインアスティをクビ差捉え、重賞惜敗に終止符を打っています。

●4月29日の羽田盃(大井)はナチュラルライズ対ジャナドリ

羽田盃(Jpn I、3歳、4月29日、大井、1800^米)は、京浜盃を6馬身差で圧勝したナチュラルライズと雲取賞まで3戦3勝のジャナドリの一騎打ちムードが漂い、以下グランジョルノ、アメージング、スマイルマンボ(大井)の順に有力視されます。

●ヤマニンチェルキラが出走、5月1日の兵庫チャンピオンシップ

兵庫チャンピオンシップ(Jpn II、3歳、5月1日、園田、1400^米)は混戦模様で、ヤマニンチェルキとマテンロウコマンドのJRA 3勝馬2頭が双壁、距離短縮で巻き返しを期すハッピーマン、近走は芝出走もダートの新馬戦を圧勝しているリリーフフィールド、ミストレスまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1オールエイジドS〜ジミーズスターが差し切る

現地4月19日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われたG 1オールエイジドS(2歳上、芝1400^米)は、E.ブラウン騎手を背に中団でレースを進めたジミーズスター(騊5歳、父ペルインカント、C.マー厩舎)が鮮やかに差し切って優勝しました。0.59馬身差の2着にG 1ニューマーケットHの勝ち馬ジョリースター。勝ったジミーズスターは今年2月のG 1オークレープレート(芝1100^米)で重賞初制覇。その後、3月のG 1ウィリアムリードSは3着、前走4月5日のG 1T.J.スミスSも最後方からの追い上げ及ばず4着でした。

●G 1豪シャンパンS〜ネポティズムが追い込み決める

上記したG 1オールエイジドSの1レース前に行われたG 1豪シャンパンS(2歳、芝1600^米)は、T.シラー騎手を背にしたネポティズム(牡2歳、父ブルータル、M.J&W.ホークス厩舎)が最後方からの追い込みを決めて優勝しました。0.13馬身差の2着にG 2スイートエンブレイスSの勝ち馬ウィズインザロー。勝ったネポティズムは今年3月のG 2トッドマンSでデビューして3着の後、続く前走4月1日のG 3T.L.ベイリューハンデキャップ(芝1400^米)を差して1.35馬身差で快勝していました。